

# ふれあいの郷衣川住民協議会 (衣川地域)

「福祉で地域づくり」をめざし、「除雪」と「見守り」をセットにして行政区単位での支援を実施することとし設立。令和2年度から活動し、初年度は6つの行政区が取り組みました。

## 基本情報

代表者	塚本 康雄 会長 (衣川行政区長協議会会長)	
事務局	吉田 裕悦 事務局 (みらい工房衣川理事)	
活動内容	除雪支援・見守り	
活動エリア	衣川全域 (令和2年度は有浦・外の沢・桑畑・嚙味・大森・古戸の6行政区)	
活動日時	10cm以上の降雪時に除雪出動	
支援対象者	対象者	一人暮らし高齢者・高齢者のみ世帯・母子世帯等自力での除雪が困難で見守りが必要な世帯を行政区で選定
	対象者数	約30世帯
	把握方法	行政区に一任
支援者	支援者	行政区長・民生児童委員・除雪機を所有している人など
	支援者数	15~20名
	確保方法	行政区に一任
会費・利用料	無し	
支援者への謝礼等	除雪機械(除雪機・トラクターなど)の燃料費を助成 ・除雪機械(ガソリン・軽油) 1台 600円/回+100円/1時間 ・軽トラック(除雪機運搬用) 25円/km	
財源	公益社団法人いきいき岩手支援財団の助成金 150,000円	
保険	市民活動総合補償制度	



## 活動の経過

年度	活動内容
平成 24 年	衣川地区センター事業で地域づくりの担い手育成研修を開催
平成 25 年	任意団体「みらい工房衣川」を立上げ メンバーは上記研修参加者 3 名と吉田裕悦さん
平成 26 年～29 年	みらい工房衣川が都築光一教授（現・東北福祉大学）による「つづき塾」を開催 塾内でワークショップを行い、衣川の課題が多数あがる
平成 30 年	みらい工房衣川が「住民が創る地域福祉活動計画」を策定 除雪支援と見守りを行政区単位で実施するものとした
令和元年	ふれあいの郷衣川実行委員会を組織し、4行政区でモデル事業を実施
令和 2 年 4 月 25 日	ふれあいの郷衣川住民協議会設立総会
令和 2 年 7 月	各地区センターで事業説明会実施 6行政区（有浦・外の沢・桑畑・嚙味・大森・古戸）が支援を実施することに
令和 2 年 12 月	除雪支援・見守り実施

## 支援者の声（大森行政区 佐藤忠助民生児童委員）

- ・ 除雪隊の名称を「ビックフット大森」として活動した（雪男→スノーマン→ビックフット）
- ・ 12月・1月の第2日曜日を活動日と設定したが、降雪量が多く12月14日以降ほとんど毎日出動した
- ・ 支援者と対象者は地域セーフティネット会議で決定した。一人暮らし高齢者・高齢者のみ世帯・母子世帯の計5世帯を対象に支援した
- ・ 支援する家はどこに何があるかが分からず大変だった。通路を確保するために雪を寄せたが、庭木が折れた等損害もあった
- ・ 対象者の家まで1.5kmほどありトラクターで行くのは遠かったが、除雪の後に話し語りができよかった
- ・ 中学3年生の孫（男子）もメンバーに入れ活動した。力があるため雪かきのスピードが全然違った。スコップは壊されてしまったがとても助かった

## 課 題

- ・ 継続して活用できる財源が必要
- ・ 今季の降雪量はボランティアだけでできるものではなかった。除雪される道路から外れた部分（門口など）をボランティアで除雪しようというイメージで始めたが、降雪量が多すぎて大変だった。地域除雪のあり方について、市の担当課・社会福祉協議会等にも関わってもらい検討していきたい